



兵庫県東播磨県民局
加古川土木事務所
よしむら たつらう
所長 吉村 達郎 さん

地域の暮らしを支える “縁の下の力持ち”

東播磨県民局内にある加古川土木事務所は、道路や河川、港湾などのインフラ整備を通して地域の暮らしを支える“縁の下の力持ち”。

昨年4月に着任された吉村所長に、加古川市内の主要なプロジェクトの現在と未来についてお話をお伺いしました。

土木事務所の業務は多岐にわたります

加古川市・高砂市・明石市・稲美町・播磨町を管轄する加古川土木事務所は、道路・河川・港湾といった地域の基盤を支える幅広い業務を担っています。

当事務所の特徴としては、多いところで1日5万台が行き交う国道250号（明姫幹線）、自動車専用道路の東播磨道など県内屈指の幹線道路を管理しており、重要港湾（東播磨港）以上

を管理している点では県下唯一の土木事務所です。

東播磨道の全線開通がもたらす整備効果

昨年11月30日に東播磨道八幡三木ランプ以北が完成し、南工区の着手から26年を経て、東播磨道が全線開通を迎えました。その整備効果として、加古川市役所から小野市役所までの移動時間は38分から21分へと大幅に短縮され、経済の活性化や一般道の渋滞解消、医療拠点（加古川市民病院・県立加古川医療センター・北播磨総合医療センター）を結ぶ「命の道」としての役割も期待されています。

長年にわたり用地提供や工事にご協力いただいた関係者の皆さま、国への予算要望等でご尽力いただいた地元市町、関係団体の皆様には改めて感謝を申し上げます。

加古川橋架け替えと4車線化 未来へつながる道路整備

国道2号の4車線化については、坂元交差点から加古川橋西詰までの約3.1kmを対象に、4つの工区に分けて事業を進めています。特に東西間の移動を支える加古川橋工区では、老朽化した

既設橋を架け替えるため、まず2車線の橋を新設し、交通を切り替えたいうえで既設橋を撤去する計画です。橋脚数を16本から5本へと減らすことで治水能力が向上し、豪雨時の安全性が高まります。昨年5月に桁架設が完了し、今年度内には床版や防護柵の施工が進む予定です。

寺家町工区・平野工区では用地買収を行っており、事業の進捗には地権者のご理解とご協力が不可欠です。加古川市からは職員の派遣もいただき、県と市が一体となって早期完成に向けて取り組んでいます。

道路・河川・下水道・港湾などのインフラ施設は当たり前の存在ですが、地域の暮らしと経済を支える大切な役割を担っています。作るだけでなく、次の世代も安心して使えるよう、これからも責任のある仕事を続けてまいります。また、当事務所ではインスタグラムで様々な取り組みをご紹介します。是非ご覧ください！

加古川土木事務所
Instagram



（加古川橋工事の様子等もご覧いただけます）